

## 第2回学校運営協議会全体会議事録

日時：令和5年6月26日（月）

場所：石橋小学校（多目的室）

参加者 学校運営協議会委員

中川賢一 黒須智子 青木信行 有野一良 伊澤淑子

小林亞由子 渡辺正巳 平石秀邦（地域連携教員）設樂孝男（校長）

オブザーバー 地域学校協働活動推進員（橋本俊明）

事務局 教頭・教務

本校職員

欠席者 学校運営協議会委員（大古理恵子）

※敬称略

〈日 程〉

- 1 本日の日程等の説明・移動
- 2 授業参観(6校時・・・3年以上)
- 3 校長あいさつ【全体会】
- 4 協議及び情報交換【分科会】
- 5 分科会の振り返り【全体会】 ～教員の困り感について～



【分科会の様子】



【全体会の様子】

（司会）A班の方から、分科会で出た「教員の困り感について」の発表を、手短にお願いします。

（A班）最近の子ども達は幼児化している。例えば、固形石けんを使えないことや蛇口をひねることができない、電気のスイッチを切ることができないといった基本的なことができていない子ども達がいて、そういうところまで指導していかなくてはいけないという仕事量の問題が挙げられました。もう一つは、家庭の問題や地域の問題など、学校外の問題に対して学校の問題と区別がつかなくなってしまい、いろいろな問題に関わらざるを得なくなっています。ある程度、線引きをしていく必要があるという意見が出ました。

（司会）B班お願いします。

（B班）まず、圧倒的に人員が少ないことが挙げられました。例えば、人が少ないことで、出張者が多いときに補教が回らず大変になってしまう。また、長時間勤務になってしまうため、土日に学校に来て仕事をしなければならない。加えて、子ども達への支援も思うようにできなくなってしまう。きめ細かい指導をするためには人員が必要。新しい学習内容が入ってくるので、自分の仕事と、新しい学習を指導するために覚えることの時間の使い方が難しいという意見が出ました。

（司会）C班お願いします。

（C班）教職員の負担が多いことが挙げられました。特に、登下校の指導、登校班編制

を学校で全て行っていること、校務分掌でも一人に対する仕事の負担の多いこと、また、担任以外の仕事で、小教研等で事務局になると、その仕事に負担がいつまで担任としての仕事ができなくなってしまう、土日にも学校にいかなくてはならない。あとは、支援員の数が少ないので増やしてほしい、先生たちに余裕があるのかという意見が出ました。

(司会) ありがとうございます。D班お願いします。

(D班) 物の管理場所がわからない。仕事を引き継いだ人が異動してしまうと気軽に聞くことができない。また、一クラスの人が多いので学級事務が多い。登下校班を学校で管理するのが大変。教員の数が少ないので、手厚い指導ができない。安全管理ができないのではないかと。子どものマイナス面の保護者への伝え方が難しいという意見が出ました。

(司会) ありがとうございます。いくつか共通する話題もありましたが、ここで少し話題に挙げたいことがありましたらいかがでしょうか。

(委員A) 気になったのは、児童のマイナス面を伝えるのが難しいことです。マイナス面を伝えなければならないことはありますよね。先生方はどういう風に工夫されているのか、何かアイデアがあれば。

(司会) 先生方でいかがですか。

(委員A) 例えば、各クラスにいると思うのですが、きちんと座ってられない、常に動き出してしまう、何かあるとすぐに出歩いてしまう等の児童がいた場合に、それを家庭にどう伝えますか。座ってもらわないと話も聞いてもらえないし、他の子への迷惑にもなるし授業が中断してしまいます。それを、家庭に伝えるとしたら、どう伝えますか。

(教員) 自分の若い頃は、親の世代も大人目線で見えてくれることが多かったが、最近は、家の人はどちらかということ、子どもの目線で見ているようで、言い方を間違うとこちらの批判になりかねないので、言い方を考えなければいけなくなり難しい。何か伝えることがあったら、褒めることを一つ出してそれから問題を切り出すようにしています。

(委員A) その子のために伝えなければならないと思うのですがね。きちんと話を聞けるようにしておかないと、本人にとってマイナスなので。

(委員B) 親がわかっていないと思います。親はゲームとか好きな物を家で与えているから、家では静かでいい子だから、学校での子どもの様子をわかっていないのではないかと意見が出ました。親は、静かにさせるために、子どもには何か見せたりゲームをさせたりして、親は親で楽しんでいるところがあるので、ゲームのないところでの学校での我が子の姿をわかっていないのではという意見がありました。グレーの子は年々増えていて、支援員も足りないし、先生も足りないし、みんなで手分けしてやっているのはつらいという話になりました。校長先生が以前、支援員の数は何クラスだから何人しか頼めないといった話をしたことを覚えているのですが、支援が必要な子どもが何人いますということで、頼めないかなという話をしました。みなさんの負担が大きいことが伝わってきましたし、手分けしてやっているのに、メンタルをやられてしまうのではないかと話も出ました。支援が必要な子が何人だから何人支援員がほしいということが基準にならないと、皆さん大変だなと感じました。登校班の班編制や指導を全部学校ですべてしていると、他校から来られた先生が、大変だということで。それで、話し合った結果、一日入学で自分の子はどの登校班だとわかっている親子には紙に書いて出してもらって、育成会や自治会に入っていない親子だけを学校で振り分けるようにすれば、先生方の負担が減るのではないかと話をしました。

(司会) 委員長さん、総括して話をしてください。

(委員A) どの班ももっともな意見が出たと思います。支援員もたくさんいることに越したことはないんですけど。市の方も枠が決まっています。そんなにたくさん枠を増やしてはくれないですね。予算もありますし。その中でどのようにやっていくかは、学校の工夫でしかないんですけど。機会があればぜひ、そのあたりを見直してくれるよう、教育委員会の方に伝えていいところかなと思います。ただ、見方もいろいろあって、どのレベルの子をどういう風にみているのか線引きしづらいことも含めて、先生方が大変な思いをしていることはわかっていますので、一つでも二つでも解決できるものがあればと考えていますので、ぜひこの運営協議会を利用していただければと思います。ストレスをためないように、うつにならな

いようをお願いしたいと思います。

(司会) ありがとうございます。最後に、橋本先生お願いします。

(推進員) 普段は石橋公民館の方で指導員をやっています。学校運営協議会のみなさんと同じ、地域の一員として参加させていただいています。いろいろ忌憚のない意見を出していただけるとありがたいです。一年前にも働き方改革が話題になりました。いろいろ法の改正の動きがあり、国の方としてもいろいろ考えてはいるのですが、現実的には先生方の仕事のしやすさといった学校環境になるのは数年先どころではないと思います。だけど、委員の皆さんは、学校の教育活動がよりよくなるためにいろいろ知恵を出してくださるみなさんです。先ほど出ましたが、子どものマイナス面を伝えるにはどうしたらいいのか、私も学校に勤務していましたので、事実をしっかりと記録しておいて、その事実を伝えればいいのかと思うのですが、担任の先生は負担が大きいと思いますので、できれば市教委のスマイル教室の相談員の先生を大いに使っていただくといった、第三者から伝えることも一つの方法だと思います。それから、登校班編制。先ほど提案していただきましたが、現在の登校班の班長、副班長の親をお願いしてみるのも一つかなと思います。ただ、登校班がなくなってしまう場合は先生方で知恵を出していただければいいと思います。今、石橋地区は子ども会や育成会がない状況です。そういうマイナス部分も委員の皆さんが知恵を出してくださいますので、学校から困り事について発信していただければいいと思います。今年は石橋小学校の樹木の剪定を企画して、冬場に剪定させていただきます。また、普段、この日は花壇の除草の日等設定していただければ、いくらでも足を運びます。そうやって地域に情報発信していただければありがたいと思います。やれる人がやれるときにやれることをやるような地域学校協働活動が展開できればいいと思いますのでよろしくお願いします。

(司会) ありがとうございました。今日の全日程が終了しましたので、第2回学校運営協議会を終了したいと思います。次回の予定は、令和5年10月19日木曜日。この日は児童表彰式ですのでよろしくお願いします。